

第9回江戸街道プロジェクトアドバイザー会議 議事要旨

日時：令和8年3月11日（水） 14:00～16:30

出席者（敬称略）：

公益社団法人日本観光振興協会総合研究所 顧問 丁野 朗

株式会社リクルート 地域創造部 部長 高橋 佑司

株式会社三菱総合研究所 主席研究員 宮崎 俊哉

跡見学園女子大学 兼任講師 山崎 まゆみ

株式会社ジャーマン・インターナショナル 代表取締役社長 ルース・マリー・ジャーマン

特定非営利活動法人全国街道交流会議 専務理事 古賀 方子

足立成和信用金庫 理事長 土屋 武司

一般社団法人日本ウォーキング協会 事業統括専務理事 井上 成美

株式会社JTB総合研究所 主席研究員 亀山 秀一

関東運輸局 局長 藤田 礼子

関東運輸局観光部 部長 近藤 光則

議題：

- (1) 前回会議の振り返りについて
- (2) プロジェクトの今後の方向性及び取組・課題状況について

議事要旨：

- (1) 前回会議の振り返りについて
 - ・出席委員一同疑義なし
- (2) プロジェクトの今後の方向性及び取組・課題状況について

○事業の方向性、継続性に関するご意見

- ・過去に伴走支援してきた事業の現在の状況を整理し、ノウハウの蓄積状況を示して欲しい。
- ・事業継続性の観点から事業主体がはっきりしているものや、安価すぎないもの等、江戸街道プロジェクトへの参加基準も設けるとよいのではないか。
- ・伴走支援する実証事業は新規性に注目しがちだが、実証後の継続性があるかを重視して支援すべき。
- ・江戸時代は初期・中期・後期で文化や作法等も大きく異なるため、旅行者のニーズと事業者のシーズにギャップを感じるため、旅行者が歩きたいと思うようなテーマ性、物語性は何かをきちんと評価、研究すべき。
- ・江戸文化体験型コンテンツを15選にとどまらず、ゆくゆくは100選まで街道ごとに大きなばらつきが出ないよう目指せるとよい。

○江戸街道のプロモーション、起点（ゲートウェイ）に関するご意見

- ・観光事業者向けにはある程度発信できている一方、一般の方に向けたプロモーションの視点が不足しているため、明確に打ち出すとよい。
- ・賞のような目玉があると一般の方の目にもとまり目玉、事業者の意欲向上につながるのではないかと。
- ・外国人にとって、知らない場所に行くより街道の起点で情報を得られるかが重要のため、起点（日本橋）での情報発信を整備することが重要である。
- ・江戸街道に関する情報を起点となる場所の観光協会の窓口で提供する等、既存リソースの活用でできることでも効果が見込めるのではないかと。
- ・日本橋の観光案内所で、全国の街道に関するパンフレット等が入手できると双方に利があると考えられる。
- ・観光事業者だけでなく、作家等の街道コンテンツに物語性をもたせられる方をシンポジウムやセミナーに呼べると面白い。
- ・全体事業のプラットフォーム環境の早期構築を目指し、サイト公開の際には、どのページが一番見られているのか等、教えてもらえるとよい。

○事業者との交流、連携に関するご意見

- ・今後は事業者との付き合い・ネットワーク形成が重要になるため、現場の声を集め、委員がフィードバックする等で、より現場に即したアドバイスをしていくのがよい。
- ・事業者交流会の場で、各事業者が各々の取組や課題感を共有し、今後の活動について共に考えていけるような機会が設けられるとよい。
- ・アドバイザー会議においても、地域の声を聞く機会を設けることも考えられる。
- ・事業者交流会にアドバイザー委員が参加し、事業者の話を聞く機会を設けられるとよい。
- ・事業者同士の接続（事業を街道でつなぐ）には、関東運輸局や一社）関東広域観光機構からもアプローチができるとよい。
- ・15選の関連事業者には、オンラインによるフィードバック会等を行い、現場のリーダー等の人材育成に貢献できる機会を設定できるとよい。
- ・旅行者や観光事業者だけでなく、地域関係者の声を吸い上げ、発信できるような機会があるとよい。

○その他全般的なご意見

- ・観光業界の動向や東京集中から他地域への展開を考える意味で、江戸街道として「交通（足回り）」の問題を解決していけるかが重要になる。

以上